

第 68 回国際経済協力セミナー

国際機関職員の育ち方 -元ジュネーブ日本政府代表部 人事担当職員の視点-  
本田英章氏

人事院 給与局生涯設計課 雇用専門官

草案作成：安藤恵利子、小幡珠理、清野夏実、坂下希紗良  
高橋美森、竹下知里、福田悠香、向井悠理  
文責：斎藤実由貴



今回、人事院給与局生涯設計課の本田英章氏にお越しいただき「国際機関職員の育ち方 - 元ジュネーブ日本政府代表部 人事担当職員の視点 - 」というテーマで講演を行っていただいた。講演では本田氏の自己紹介から始まり、国際機関の概況やそこで働く人々、国際機関で働くという選択肢はどういったものかなど、国際公務員としての働き方とはどういうものなのか、というように展開された。

## ご経歴

2005年に大阪大学法学部を卒業後、国家公務員として人事院に入る。厚生労働省への出向などを経て、2012年から3年間スイスジュネーブの国際機関日本政府代表部で人事担当として勤務された。そこでは現在非常に少ない国際機関で働く日本人をどのように増やしていくかについて、各国際機関人事部と相談、採用の後押しとなるような支援、JPO制度のジュネーブ国際機関への運用といった業務をされていた。

## 国際機関の概況

「国際機関」と聞くと、すぐに「UN」が一番先に思いつき、その後に、UNICEF・WFPなど有名な機関や話題に上がりやすい機関が挙げられるだろう。これに日本に置ける国際機関の知名度に表れている。しかし実際はUNファミリーとそれ以外のNGOに近いような団体も含めると、それぞれ規模も分野も様々で多岐にわたる。その数、世界で100以上だ。その活躍の場も例えば飢餓について議場で話し合う場もあれば、実際に戦地などに赴いて、弱い立場の子供や女性を助ける活動を第一線でしている団体もある。

ジュネーブに本部が置かれている機関では、例えばWTOなどは経済を勉強している方は馴染みがあるのではないかと。また、なかなか学生には馴染みがないかもしれないが、国際電気連合（ITU）や世界知的著作権機関（WIPO）などもある。実際に国際機関の表などを見てみるとその数に驚くとともに、ぼんやりとしたイメージがはっきりしたものになるはずだ。

そして、国際機関はそれぞれの長がいて、事務局がいて、その下にスタッフがいる構造になっていて、各機関が独立した組織として存在しており、独自の財源を持つ。就職活動という面からみると、それぞれが一種の企業のようなものとして捉えられる。各機関の詳細については「外務省 国際機関リンク一覧」を見てみることをお勧めしたい。

<http://www.mofa-irc.go.jp/link/link.html>

## 国際機関で働く人々

国際機関で働く人に関して、その門の狭さから、スーパーマンのような完璧な人間というイメージを抱いて敬遠しやすいのではないだろうか。しかし、実際に人事担当である本田氏が接した人々は、人間味に溢れたごく普通の人が多かった。

現在国際機関で働いている日本人は約800人であり、ポストの変動が激しいためあくまで目安ではあるが、これは職員全体の2~3%と言われている。日本はその拠出金の多さや、地理的配分を考慮すると、現在より2~3倍の職員がいるべきだと言われている。

## 国際機関で働くという選択肢

国際機関とは、外資系企業や NGO などの数ある国際的に活躍する仕事の中の一つの選択肢である。必ずしも安定した職業ではなく、特に採用の面では日本の雇用慣行とは大きく異なる。日本では企業が職員の育成を行い、長く会社に勤めてもらう前提で大学出たての新人を採用する。しかし、国際機関は、基本的に応募するポストに関連する仕事の経験が最低二年間ある人を 1-2 年間の有期契約で中途採用する。このような国際機関で働くということは、キャリアプランを十分に計画した上で、就職活動を一生続けていく覚悟が必要である。

### ① 動機の明確化

まず、国際機関で何を成し遂げたいのかということを考える必要がある。キャリアプランを考えるうえで、国際機関を目指したきっかけを思い出すことは重要である。例えば、子供を救いたいという明確な目的や、ワークライフバランスを大切にしながら働きたいなど、どんな目標でもかまわないが、これが国際機関で働く際の厳しい就職活動で芯となるものである。

次に自分がやりたいことは国際機関でないと達成できないことかということを検討する。というのも自分のやりたいことは国際機関に入らずとも NGO などでもできる場合もあり、また 30 歳くらいまでの準備期間に自分の目標が変化して国際機関に入る必要がなくなる可能性もあるからだ。

そして一番大事なのは、自分がやろうとしていることが自分の好きなことかどうかということだ。国際機関では基本すべてのポストが公募であり、高い専門性が求められる。そのためあれもこれもと広く仕事をすることはできず、自分で「これをやる！」と決めた分野に専念することになる。だから国際機関に入るためにやりたくもない仕事をするというのは望ましくなく、好きな分野の仕事をして、その結果国際機関につながるというのが望ましい。

### ② 情報収集の実施

インターネットが発達した現代では、昔よりも情報が得やすくなっており、ウェブサイトを利用することで様々な情報収集が可能である。日本政府では外務省国際機関人事センターのサイトや、Facebook など情報公開を行っている。また国連フォーラム、UN careers や各国際機関のサイト、国際広報センター、個人のブログなども参考になる。書籍では中央公論新社から出版されている赤阪清隆氏の「国際機関で見た『世界のエリート』の正体」がおすすめである。

また、駐日事務所や外務省などが開催している各種説明会にも積極的に参加することが望ましい。多くの学生は国際公務員に対して、すごい人たちであるというイメージを抱いていると思われるが、実際に働いている人たちに会うことで、そこま

で自分に遠い存在ではないのだと思えるようになるだろう。また国際機関でのインターンも、仕事の進め方やそこで働いている人と直に接することができる機会であり、将来の採用への足がかりになることもあるので、積極的に申し込むのがよい。

### ③ 計画的な準備

アドバイスとしては、JPO 派遣を国際機関で働くための足がかりとしてほしいということだった。応募資格は【35 歳以下、修士号取得、高度な英語力、職務経験 2 年以上】である。JPO 派遣採用を中期的目標に掲げ、外大生にはまず、語学力および専門性の向上を目指してほしい。語学力はあるに越したことはない。年々 JPO 派遣の採用倍率は低下しており、昨年・一昨年を例に挙げると 10 倍を切っているので、自分には無理だと諦めず果敢に挑戦してほしい。

## 質疑応答

Q. 大学生の間に国際機関と接点を持つ方法はあるか？

A. 学部生ではなかなか厳しい。院生なら半年のインターンシップに参加すると良い。学部生でも、駐日事務所でのインターンが探せばあるかもしれない。

Q. 国際機関でインターンをするには欧米の大学に行かねばならないのか？

A. 必ずしも日本にいたることがダメというわけではない。しかしながら、国際機関と接点を持つために最も有効なインターンを行う場合は、一定期間継続して働く必要があるため、インターン先に近いほうが有利なのは事実。

Q. 国際機関職員は、どのような専門分野で Ph.D. を取得しているのか？

A. 働きたい国際機関と関連のある分野が望ましい。人道関係なら人道や難民、保健関係なら公衆衛生等、ILO なら労働法や労働経済等。その分野で専門的に働くことになるので、自分のやりたいことを曲げる必要はない。

Q. JPO 試験において合格の決定打となる項目・能力とは？

A. 合格者は、人柄としては本当に普通の人。重要なのは、経歴の段階でどれだけ国際機関の仕事に近いかどうか。国際機関で働く意思が強く、たとえば NGO・青年海外協力隊・国際機関でのインターン経験等があり、専門分野に筋が通っていることが望ましい。また、英語力も必要。英語を流暢に話す（意見を主張できる）能力や、英語で仕事ができる（議事録等を作成できる）文章力が求められる。なお英語力があまり高くなくとも、強烈的な専門性のある人（たとえば特定の専門分野の第一人者

など)であれば、その専門性で英語力をカバーできることもあるが、JPOの段階ではそれほど専門性が高い人はいないので、やはり英語力が重要。

Q. なぜ人事に特化した職業を選んだのか？

A. 人と関わること、人を支援することが好きだから。とはいえ、人事院には幅広いさまざまな分野の仕事が存在しており、国際機関職員のように特定の分野の専門家、という感じではない。

Q. ジュネーブでは何語で仕事をしていたのか、またその言語は大学時代に学んだことがあったか？

A. 大学時代の第二外国語はドイツ語。ジュネーブはフランス語圏だが、国際機関と仕事をするときには英語を使用。日常生活など、フランス語ができたほうが良い場面はある。

## まとめ

氏は自身のこれまでの短いスパンでの様々な経験・キャリアに関し、「毎日が新入社員のようなもの。全て何かの役にたつだろうと思い、何事も勉強と思って取り組んでいる」と述べた。また、講演を終えるに際し、「もし国際公務員に興味があるならば、まず自分でインターネットで調べてみてほしい。主体的なキャリアプランを立てるためには、自ら積極的な情報収集が重要」と学生にアドバイスをした。講演は全体を通して、話の途中でも質問が度々飛び出し、インタラクティブであった。